



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 小野薬品工業株式会社

昭和57年暮、小野薬品工業では、資本型証券の時価発行による資金調達を検討していた。小野薬品工業では、今後予想される多額の資金需要をまかなっていくにあたって、  
資本市場からの資金調達を重視していた。このため、今回の資金調達も、将来の資金調達  
も含めた財務戦略の一環として行ないたいと考えていた。

### 会社の概要

小野薬品工業は、その歴史が古く、享保2年(1717年)に、初代小野市兵衛が道修町  
の現在の本社所在地において、薬品問屋「伏見屋」として創業した会社であった。その後、  
薬品問屋として発展をとげてきた。昭和22年には医薬品製造部門として日本有機化工株  
式会社を設立して、メーカー部門へ初めて進出した。昭和23年には、この日本有機化工  
株式会社を小野薬品工業株式会社と改称した。昭和37年には、大阪証券取引所第二部に、  
翌昭和38年には、東京証券取引所第二部に、株式を上場した。昭和43年には、創業250  
周年事業として、中央研究所を完成した。昭和44年には、東京・大阪の各証券取引所市  
場第一部に指定替えとなった。昭和45年には、大阪証券取引所で貸借銘柄に指定された。  
昭和44年には、富士宮市郊外の富士山麓にフジヤマ工場用地約10万 $m^2$ を購入して、昭  
和50年に本館および第一・第二工場を完成させた。さらに、昭和55年にはフジヤマ第  
三工場、昭和57年にはフジヤマ第五工場を、それぞれ完成した。このほか、昭和57年  
には、福井に安全性研究所・工場用地約10万 $m^2$ を購入していた。昭和57年11月現在、  
従業員は1,338人であり、そのうち、中央研究所のスタッフは130人程度となっていた。

### 小野薬品の業績

今日、小野薬品工業は、「夢の薬品」とまで言われているプロスタグランディン  
(Prostaglandins:PG)系薬品の開発において、世界の最先端を競っていることで、世界的  
に注目を集めていた。しかし、そのプロスタグランディン系薬品が収益に寄与するまでには  
長い年月がかかっていた(附属資料5)。そして、その間の業績はあまり捗々しいもの

---

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール助教授鈴木貞彦が外部資料にもとづいてクラス討議のために作成したものであり、経営の巧拙を例示するためのものではない。(1983年10月作成)